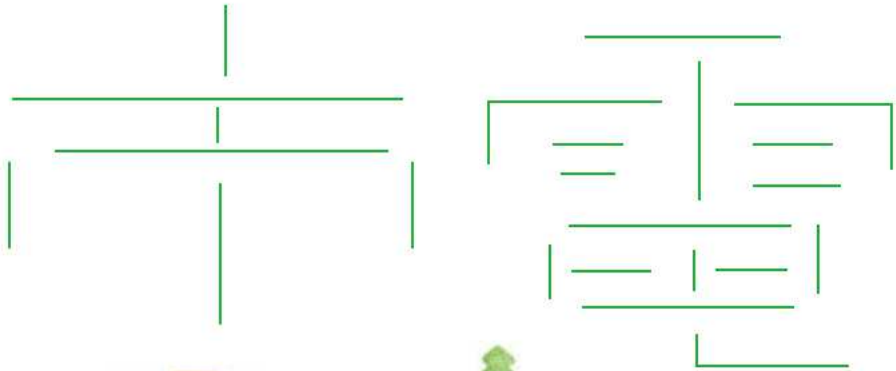


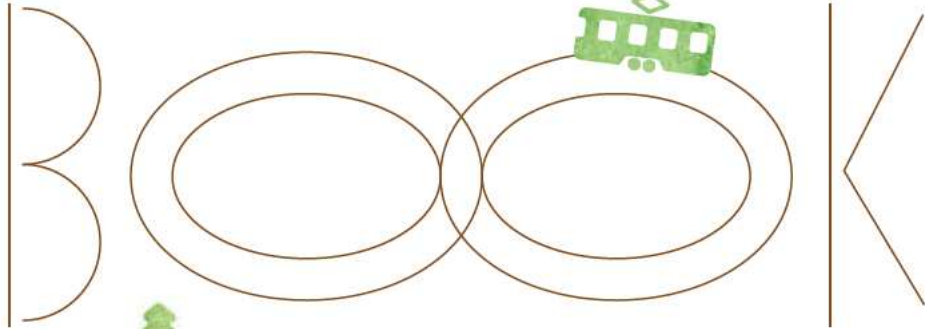


Sapporo Shiden Book

市電



Sapporo Shiden Book



スタンプラリーで
すてきな
景品ゲット!!

取材・記事 市電ブックプロジェクト
発行 札幌市中央区市民部地域振興課



市電ブックスタンプラリー

市電沿線をめぐり、
スタンプラリーに参加して、
景品をゲットしよう！

市電沿線にスタンプを設置したスポットを6カ所設けました。スポット最寄りの停留場紹介ページの下部にあるレールに、電車の形をしたスタンプを押してください。スタンプの中にある文字を下記の欄に入れて、完成したキーワードとお名前、郵便番号、ご住所、電話番号を官製はがき又は封書に明記の上、ご応募ください。

スタンプ設置箇所

スポット	キーワード
① 西4丁目 (5ページ)	1
② 中央区役所前 (7ページ)	2
③ 西15丁目 (8ページ)	3
④ 西線9条旭山公園通 (10ページ)	4
⑤ ロープウェイ入口 (14ページ)	5
⑥ 中島公園通 (23ページ)	6

開催期間 平成29年12月27日(水)まで
先着400名(なくなり次第終了)

応募先 〒060-8612 札幌市中央区南3条西11丁目
札幌市中央区市民部地域振興課
市電BOOKスタンプラリー担当

※景品は、8月頃より先着順に発送させていただきます。
※応募は、おひとり様1回までとさせていただきます。

レールの上に押してね！



市電ブックプロジェクトの皆さん

歩く

この本では紹介するスポットの住所を載せていません。それは皆さんに「迷子になって」歩いてほしいからです。市電に乗って、この本を片手に時間を気にせずにのんびりと散策してみてください。市電沿線ではできない体験がきっとあなたを待っています。

(小林優斗)

乗る

この本に載っているスポットは普通のガイドブックにはあまり載っていないようなところばかりです。ですが、この本で紹介するスポットには有名ではないからこそその魅力があります。発見があったり、ほっとしたり、おもしろかったり、感動したり。実際に歩いてみると、あなたもその魅力に気づくことでしょう。

集う

さっぽろ市電BOOKは市電や沿線を活性化するために、「市民の手による今までになかったガイドブック」というコンセプトで出来上がりました。制作には中央区まちづくり会議市電部会や高校生を始めとする若者、札幌オオドリ大学などから多くの人が集まり、それぞれのアイデアを出し合って作りしました。

市民がつくる、市電BOOK

札幌市民の手で市電沿線の魅力を

一から発見して作った本です。

これを片手に市電沿線で

「迷子」になってみてください。





中央図書館前

電車事業所前

ロープウェイ入口

西線16条

西線14条

西線11条

西線9条旭山公園通

西線6条

西15丁目

中央区役所前

西8丁目

西4丁目

もくじ

はじめに

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

3

1

編集後記

路線図

狸小路

すすきの

資生館小学校前

東本願寺前

山鼻9条

中島公園通

行啓通

静修学園前

山鼻19条

幌南小学校前

東屯田通

石山通

30

29

28

27

26

25

24

23

22

21

20

19

18

17





三吉神社は停留場からすぐ。松に覆われたのどかな境内でひと息。実は右も左も裏までもビルに囲まれた、まさに都会のオアシス



以前は東へ北へとレールが続いていた。一部路線廃止で折り返し運転の時代へ。そしていま、ループ化へと進化した

つながりと温もりの色探し
 神社に勝利や成功を願う絵馬を握りしめた学生さんが訪れます。事業繁栄を頼みに近所の古い商店のおやじさんがお札を求め、店や事務所にそれを飾ります。
 ここは最も古い官庁隣接商業地帯のひとつ。互いに顔の見えるつながりを大切に、お祭りでは能楽奉納あり、音楽バンドのライブありで、老若男女が集います。古くからのものを大切にしつつ新しいものも取り入れる、地域密着型を目指す魅力的な宮司さん。
 どっしり構えたコブシの古木や思わずほんわか気分になってしまふ狛犬を見た後、近辺を散策。地域全体が温もりのある色で満たされています。

西8丁目



南2条通付近のたばこ店
 電車通から2条南の通り。すすけたたばこのプレートと壁の木肌に温もりが感じられる



南1条西8丁目付近
 電車通から1条北の通り。かわいらしい赤のオーニング(日よけ)と黄色い壁。学生さんたちが集う風景もしばしば



(取材・記事 坂下嘉章)



大通西4丁目付近
 電車通から1条北の通り。向こうに大倉山ジャンプ台、右手に道庁赤レンガを発見



南1条通三越付近
 東に少し出たところ。お祭りではここで馬がシッポを振る姿も

西4丁目

賑やかな電車ワールド入口

150年前にタイムスリップ。この辺りは東に豊平川が迫り、西もサクシユ琴似川で閉ざされた原野でした。
 時は過ぎて大きな道ができ、かわいらしい時計台が右に建ち、赤レンガの建物が左に現れました。道は駅や空港につながり、東京へ世界へ。
 以前あったという噂の停留場「丸井前」や「ビル会社前」まで、少し足を延ばしながら街並みウオッチを楽しむのがおすすめです。「一条橋」や「新琴似駅前」などの旧路線停留場付近をたずね、25キロ制覇する達人もいます。
 ここは市電ワールド入口。行き交う人、車、そして電車。変幻自在な姿を見せてくれます。



スポット①
 大通情報ステーション(カウンター南側)
 大通西4丁目(西4丁目駅から徒歩約4分)
 設置時間 10:00~20:00(平日)
 10:00~19:00(日・祝)





南2条横断歩道橋からの眺め。かつてこの一角は師範学校の用地で、電車はクランク状に3回直角に曲がって、単線で走っていたという



大正15年に札幌控訴院として建てられた札幌市資料館。札幌軟石を使った建物としては全国的にも貴重なもので、平成9年には国の登録有形文化財に指定された

中央区役所前

歩き回って見つけた「えん」

現在のプリンスホテルと中央区役所は、昭和33年まで市電の車庫、その昔は石山通を通っていた馬車鉄道会社の建物があった場所です。辺りを歩くと、軟石でできた札幌資料館の裏庭は、木もれ日がかん地よい隠れスポット。館内にあるミニギャラリーとおおば比呂司記念館では、気軽にアートを楽しめます。花の匂いに導かれていくと、大通西12丁目では友好都市のある各国のさまざまなバラを楽しむ「バラ園」。北大植物園を蜜源としている札幌大通高校で飼育しているミツバチは、今日も元気に大通を飛び回っています。

西15丁目

アート散策に出かけよう

1973年まで、この辺りの市電路線は、西方向に直進する一条線（円山公園方面行き）と南に曲がる山鼻西線が分岐していましたが、一条線が廃止となり、残ったのが大きなカーブを描いて西線につながる線路。札幌の市電路線の中でも、独特な味のある風景を表しています。西15丁目の停留場から北方向へ歩けば、アートエリアへ。近代美術館や三岸好太郎美術館、知事公館の庭、ミニ大通公園の緑も楽しめます。近代美術館まで続く道には、ビルの外壁に描かれたアートや面白い看板もいろいろ。札幌随一のアート散策が楽しめます。



スポット②

中央区民センター（受付窓口付近）
南2条西10丁目
（中央区役所前駅から徒歩約5分）
| 設置時間 | 9:00～17:00



教育文化会館

毎年秋には市民芸術祭などで「演奏」や「演劇」を楽しめる



大通公園

高さ25mの大きなマイバウムのモニュメントは姉妹都市、ミュンヘン市から寄贈されたもの



スポット③

札幌市資料館（中央階段前）
大通西13丁目
（西15丁目駅から徒歩約5分）
| 設置時間 | 9:00～19:00

※毎週月曜日は休館となっております。
※入館は無料となっておりますので、是非ご観覧ください。



知事公館の野外彫刻

敷地内では、彫刻家・流政之作の『サキモリ2000』『サキモリ2002』、北海道出身の彫刻家・安田侃作の『意心帰』などの野外彫刻が鑑賞できる



道立近代美術館

道内随一のコレクションを誇る美術館。国内外のユニークで多彩な作品を展示する特別展を数多く開催。周囲には数々のアートスポットが点在する



西線9条旭山公園通のランドマークともいえる菓子会社の看板。老舗と新店の洋菓子店は、この街の人々を優しく甘く見守っている



現代の賑わいを作り出しているカラフルな建物

おかしなまち
市電が走る福住桑園通と、旭山公園から中島公園を結ぶ菊水旭山公園通が交差する南9条通。停留場に降り立つと鮮やかな赤と青の「チョコレート」「チューインガム」と書かれた菓子会社の看板が目を引きまします。その西側には老舗菓子店があり、市電に因んだ名前「ロールケーキ」が人気。パッケーの電車の絵柄は季節ごとに変わり、市電のイラストが描かれたシャッターは閉店後も人々の目を惹きつけてくれます。近くにはオーガニック素材で作られたプリンが人気の菓子専門店もあり、イトインも可。そう、ここはお菓子の囲まれた「おかしなまち」なのです。

西線9条旭山公園通



旭山公園通地区センター
壁のアートが印象的な建物。図書室は狭いながらも3万冊以上もの本を所蔵



南9条緑地
赤いオブジェがシンボルの石山通に面した緑地。幼児向け遊具もあり、街角にそっと佇むオアシス

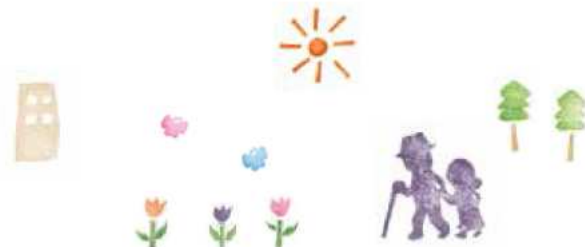


昔も今も賑わいの街
今はマンションが立ち並び西線6条。老舗のお寿司屋さんでお話を伺いました。100年前は「しずか野」と呼ばれ、牧場もあつたのですが、市電が開通してから住宅や商店が増えました。昭和30〜40年代には、道の両側に2階建ての商店や飲食店、個人病院などが立ち並び、商店街を5分も歩けば何でも用が足せたといえます。近くの八条市場には八百屋や魚屋、肉屋、乾物屋などがあり、地元の人たちで賑わっていました。少し歩いて西屯田通に入ると、赤、黄、黒、緑など遊び心あふれるカラフルな建物を見つけました。西線6条に現代の賑わいを作り出しています。

西線6条



北星学園創立百周年記念館
女子中学高校の敷地内にある記念館。4月~10月の月・水・金曜日の午後は公開している





歩道の数1、2、3、4、5。Y字路の三角地帯に入ると、知らないまちに迷い込んだ気分



日本福音ルーテル札幌教会札幌礼拝堂(写真:左)。ルーテル会館(写真:中)。めばえ幼稚園(写真:右)

△をめぐる冒険

現在の南14条西郵便局付近はかつて藻岩村(現在の山鼻・円山エリア)の南端で、その先には牛2頭の小さな牧場がありました。牧場主の名は黒沢西蔵。のちの雪印乳業の創始者です。

電車を降りて西へ。このあたりを境に碁盤の目の区画が途切れるのは、村と牧場の境目だった名残でしょうか。湾曲した道や斜めに走る道が不規則な区画を描き、不思議な三角地帯があちこちに出現します。ピラミッドとかパミューダトライアングルとか、そういうば三角形ってミステリアス。村から牧場へ。□から△へ。西線14条トライアングルは、異界への入口かもしれません。

西線14条

西線11条

地域とともに歩んできた教会

1517年にドイツで宗教改革を始めたルター。その教えを受け継いでいるのが西屯田通にある「日本福音ルーテル札幌教会」です。札幌市から景観重要建造物に指定された教会は、住宅街の景色に溶け込んでいます。

日曜礼拝に参加して教会の中を見せてもらいました。天井と聖壇がアーチ形で、聖母の胸に抱かれるような温かさを感じます。

1934年建築の教会は、塗り直しや修理を繰り返しながら大切に使われてきました。

併設の「めばえ幼稚園」は3年後の1937年に開園し、卒園生は4000名以上。地域の人々の心のふるさとになっています。



幌西自転車公園

通称「三角公園」。遊具や遊水路、小高い山や自転車コースもある遊びの森



段ボールアートギャラリー

昆布専門店「札幌こんぶ屋」2階。段ボール箱のリサイクルとは思えない作品がずらり



南11条おおたに公園

この公園には野球場もあり、未来の「大谷」が練習に動んでいるかも、などと想像がふくらむ





藻岩山は、「インカルシベ」（いつもそこに上がって見張りをするとところ）と呼ばれるアイヌの人たちにとっての聖地だった。2012年に「恋人の聖地」、2015年に札幌の夜景が「日本新三大夜景」に認定された



伏見稲荷神社。主に商売繁盛や学業成就、縁結びなどにご利益があるといわれている

西線16条

パワースポットへワープ

西線16条エリアは、市電沿線随一の住宅街。「住宅以外に何があるの？」という心を抑えて、藻岩山方面を目指してみました。停留場前のある山鼻郵便局の横の通りを西へ向かうと、程なく謎めいた階段にぶつかります。平地と高台を無理やりつなげたような階段を上ってみると、そこは藻岩山山麓通。この道を円山方面に進むと、やがて伏見稲荷神社が見えてきます。鮮やかな朱色の鳥居が並ぶ壮観な姿は、札幌ではほかにあまりありません。後方を藻岩山、左右を山の稜線で囲まれた土地は「四神相応」という、パワースポット地形だとか。京都由来のご利益を授かりに、住宅街からワープしてみよう！

ロープウェイ入口

カムイシユネの灯る藻岩山

「子供の頃、藻岩山の赤岩には長い生きものがいて、その下には沼があり、そこへ行ったら帰れないと言われていた」。これは「さつぽろ文庫」に載っていた老夫婦のお話。アイヌの人々が「カムイシユネ（神の燈火）」が灯る神の山として深く信仰していた藻岩山は、開拓時代も神聖な場所だったようです。今の藻岩山には登山道の三十三観音や平和塔、藻岩山神社、頂上の奥の院など、たくさんパワースポットがあります。藻岩山は今も神聖な山なのでしよう。ロープウェイで一気に登るのも良いですが、観音様に手を合わせながら登山するのも楽しいものです。



藻岩山神社
スキー客の無病息災と安全を祈願し建立された。鎮座する神様の名前に注目！

スポット⑤
もいわ山麓駅 (4Fチケットカウンター横)
 伏見5丁目3-7 (ロープウェイ入口駅から徒歩約9分)
 設置時間 10:30~22:00 (夏季4/1~11/20)
 11:00~22:00 (冬季12/1~3/31)

※11月21日~30日は全館休業となりますのでご了承ください。
 ※ロープウェイにご乗車される場合は有料となりますが、ご興味がございましたら是非ご利用ください(料金詳細はTEL 011-561-8177まで)。



札幌市水道記念館
水や自然の大切さを感じることが出来る体験型ミュージアム。大人も子どもも楽しめる



伏見東緑地
藻岩山ロープウェイ駅付近に広がり、旧小熊邸がある緑地。ちょっとした秘境気分が味わえる





埋蔵文化財センターが隣接する中央図書館は、蔵書数90万冊を誇る知識の宝箱



百段階段の上から見える景色。昔はあたり一帯が農地で高い建物がなかったので、札幌師範学校（現在の中央図書館）がよく見えたという

電車事業所前

川のせせらぎ、そよぐ風

電車事業所の横から藻岩山の方へ歩いて行くと見える古い階段は、「百段階段」と呼ばれる不思議なスポット。上るたびに段数が変わるといわれています。

この階段がある電車事業所裏は何だか不思議。戦時中の地下壕や、札幌軟石の堀、馬頭観世音のお堂があつて、湧き水を汲める場所や公園もあつて…。昔の風景が残っていてとてもどか。街の喧騒から離れた静かなこの通りを散歩するのも楽しいと思います。ロープウェイ入口の近くまで歩けば素敵なカフェがたくさんあるので、歩いた後はカフェでひと休みするのも良いですよ。

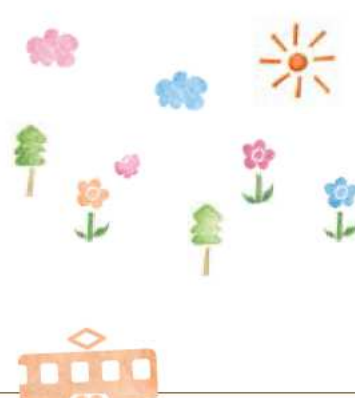
中央図書館前

四季を感じる札幌の知恵袋

札幌市を知るなら中央図書館が一番。まず隣接する埋蔵文化財センターで地形を把握。旧石器時代や縄文時代などの土器や石器から当時の暮らしを学べます。

図書館には江戸時代から現在に至るまでの資料が充実。市電沿線や札幌市内はもちろん、北海道の名所旧跡、観光に関する本もふんだんに揃っています。

調べ物に疲れたら図書館裏へ。ぶらぶら20分散歩コースがあり、四季折々の自然が楽しめます。アイヌの人たちが「インカルシペ」（いつも上って見張りをするとところ）と呼んだ藻岩山もすぐ目の前。今や札幌の夜景は日本新三大夜景として全国に名を馳せます。



電車事業所の堀

堀の穴から向こうを覗けば見慣れた電車も違って見えるかも？



山元公園

この地域が昔「山元町」という名前だったことに由来する



散歩コース

図書館裏にあるやまはなサンパークの散歩コースでは、季節ごとの風景が楽しめる



図書館裏から望む藻岩山

天気の良い日には、ロープウェイが行きかう様子まではっきり見ることができる

※中央図書館は、平成29年8月から平成30年3月まで改修工事のため閉館予定（詳細はTEL 011-512-7330まで）。

（取材・記事 神垣晶子）

（取材・記事 丸山勇一）



付近は小さな個人商店が軒を連ね、どこか懐っこさを感じさせる街並みが広がる



石山通停留場(写真:左) 国道230号線と線路の交差点(写真:右上)

兵屋から住宅地へ

屯田兵が周辺地区を開発する際に設けた道路が由来の停留所。兵屋が建てられていた名残が、現在も多く、住宅が並んでいます。市電の一日の乗降客数も、外回り・内回りともそれぞれ約千人と多く、通勤や通学の時間帯には市電を待つ人が停留場から溢れます。過去には混雑解消のために、停止位置を変えろといった工夫もされたそうです。

現在の停留場は改築されたばかりで、車両の昇降口との段差も小さく、スロープも設置されました。周辺には古くからある百貨店やパン屋さんなどが佇んでいるので、お昼ごろにのんびりと買い物しながら、付近を散策してもいいかもしれません。

東屯田通

兵屋から住宅地へ



(取材・記事 丸山勇一)

石山通

歴史を学ぶお寺参り

石山通と呼ばれるようになったのは明治時代。硬石山から札幌軟石を運ぶ輸送路となり、石山に通じることからこう呼ばれるようになりました。軟石を用いた建築物が現在も市内に点在し、歴史を感じさせます。

また、電車通からは見えないものの、織田信長に深く関わるお寺がこの近くにあることをご存じでしょうか？織田信長といえば本能寺の変で知られていますが、延暦寺の焼き討ちも史上重大な事件です。その延暦寺の末寺とされる太子寺。石山通停留場で降り、10丁目左手に位置するお寺です。現代の札幌で戦国の歴史にふれるお寺巡りはいかがですか？



太子寺

住宅街にひっそりたたずむ寺院。ご本尊は聖徳太子の御影とされる救世観音



久遠寺

こちらは法華宗の寺院。一見普通の住宅のような、こぢんまりとしたたたずまいのお寺



商店街に百貨店?!

停留場向かいのスーパーはかつて「21条百貨店」と呼ばれ、今もプレートが残っている



車イス用スロープ

全停留場の中で、2番目に改築された新しい停留場

(取材・記事 藤田伸夫)



南19条大橋と河川敷



歩道橋の上から望む軌道と藻岩山

幌南小学校前

歩道橋の上から

柏中学校前の歩道橋は、市電の路線に沿って三方向にかかっていて、21条通にかかる歩道橋の上からは、市電沿線の中でも藻岩山が一番よく見えます。この歩道橋の下で線路は大きなカーブを描き、藻岩山に向かって延びていきます。歩道橋を柏中学校側に降りると、校門横に3本の架線柱が立っていて、そこにはアメリカのカンブリア・スチール社が1876年に製造したとする刻印が。これは、道内で使われていた最古級のレール。鉄道のレールとしての役目を終えて、1956年、市電の架線柱に再利用されたものです。60年もの長い間、子どもたちの登下校を見守ってきたでしょう。



3本の架線柱

柏中学校の校門と22条大橋に向かう道路の間に立っています



柏中学校前横断歩道橋

21条通を繋ぐ歩道橋。登下校の時間には、多くの生徒が利用します



山鼻19条

19条通から

90年近く前、今の19条通でアイヌの人たちによる熊祭りが開かれ、見物客で賑わったそうです。夏には子どもたちが豊平川の土手を下りて水遊びをしていたとのこと、舗装されていない土ぼこりの道に人が行き交う姿が浮かびます。札幌オリンピックの年に南19条大橋が架けられ、環状線となった今は人より車の数が多くなっています。初夏に河川敷の木立にスズランが群生し、車の騒音の中、そこだけは時が止まったように人も足を止めます。また、夏の花火大会には、橋を目指して浴衣姿の若い人たちが家族連れが笑顔で進むのが季節の風物詩。その様子は、熊祭りの賑わいと時として重なります。



群生するスズラン

札幌市の花としても知られるスズラン。群生している場所は市内でも珍しいです





新しいマンションと商店街が広がる行啓通南側



橋がかかる鴨々川(写真:右)。マガモ(写真:左上)。昔、先端に大型すべり台が付いていたと思われる高見台(写真:左下)

静修学園前

賑わいにひそむ水の森

札幌静修高校と札幌南高校が近くに立地する「静修学園前」停留場。高校生の若さで活気にあふれ、おしゃれな飲食店も数多くあります。

賑やかな反面、東へ少し進むとゆっくりとした時間が流れています。そこは、「鴨々川遊水場」。鴨々川の自然を楽しむためにつくられたところ。昔は川渡ロープや水車、大型すべり台があり、冒険心あふれる場所でも子どもたちに親しまれていました。しかし、それらの遊具はいつの間にかなくなり、今では水と緑の静かな憩いの場と変わっています。夏は涼しむための散歩みちとして、冬には鴨たちの休憩所として、季節ごとの魅力がそこにあります。

行啓通

変わりゆく通り、変わらないもの

明治9年の山鼻兵村開村以来の歴史を持つ行啓通。北側には昔ながらの情緒を残した街並みが、南側には新しいマンションが目に入ります。最近閉店した老舗の商店。建設中のマンション。行啓通はその姿を変えつつあるようです。

しかし、変わらないものもあります。行啓通の名は、明治天皇ゆかりの「お声掛かりの柏」に大正天皇が皇太子のときに行啓されたことに由来します。「お声掛かりの柏」は長年地域のシンボルとして親しまれました。この柏の木は、昭和五十一年に切り倒されましたが、その子孫である幼木が山鼻公園内に移植され、地域を見守り続け、当時の歴史を伝えています。



柏中学校の校章
柏の葉がデザインされている



お声掛かりの柏(現在は2世)
明治天皇がその名をお尋ねになられたことで知られる木



アートなごみ捨て場
日常にあるもので作られたごみ捨て場。毎日のゴミ捨てが楽しくなりそう！



創成川取水樋門
創成川の物資輸送活用などのため、明治4年に建設





北と南は開拓期に生まれたふたつのまち。西と東は子どもたちにとって悲喜こもごも。ここは境目交差点(写真は北西向き)



中島公園内の各施設。公園周辺は石壁あり、木造の門あり、手づくりの意匠や自然の造形あり。建築好きにはたまらないエリア

中島公園通

ノスタルジック住宅街道

札幌市営地下鉄が開業する前、中島公園への行楽にはこの停留場を利用するのが常でした。電車通沿いに新通市場や個人商店、鴨々川沿いには料亭などが軒を連ねたという当時の賑わいが偲べれます。一方、電車通の西側は、昭和の古民家が残る住宅街。外壁に蔦を這わせている建物が多く、秋はちよっとした隠れ紅葉スポットとなります。この時代の住宅建築は、木の外壁と煙突がついた屋根が特徴的。色も形も模様もさまざまな外観に注目しながら散策すると、まるで野外美術館を歩いているかのよう。ノスタルジック住宅街道で、気ままな時空散歩はいかが？

山鼻9条

二つの境目

山鼻9条の停留場から北を向くと、線路がくの字に曲がっています。これは明治期に屯田兵が整備した山鼻村と、開拓使が作った札幌中心部との境目に生じたズレによるもの。また、昭和37年〜平成5年までこの停留場は「中央保健所前」と呼ばれ、電車通の西側にあった札幌市中央保健所は予防接種でおなじみの場所だったとか。一方東側にはかつて遊園地やプール、人形劇場が集まっていた中島公園。停留場の西はお注射、東は遊び場：「お母さん、今日はどっちに行くの？」悲喜こもごも、昔の子どもたちにとってこの場所は、重大な「境目」だったに違いありません。



山鼻村と札幌中心部の「境目」くの字に曲がった線路。電車の最後尾に立つと角度のズレがよくわかる



電車通の銭湯
まちあるきに疲れたら、電車の首を聞きながらひとつ風呂、というのも粋なもの



(取材・記事 原田千晶)



鴨々川
鴨々川を渡れば中島公園。今も残る呉服店や染物店などが花柳昇華やかなりし頃を偲ばせます



スポット⑥
豊平館(入口付近)
中島公園1-20(中島公園通駅から徒歩約3分)
| 設置時間 | 9:00~17:00

※第2火曜日は休館となっております。館内を見学する場合は有料(中学生以下無料)となりますが、ご興味ございましたら是非ご覧ください。



1923年、西創成学校前停留場として開業し、幾度も改称を重ねた。かつて、この地域は西創成と呼ばれ、商人の町の中心だった



東本願寺前の内回り停留場に立って北を向くと軌道はまっすぐ。(写真:左)南を向くと軌道はカーブを描いている(写真:右)

ときめく、端っこ
カステラの端っこ、太巻きの端っこ。端っこには、特別な味わいがあるものです。ススキノの端っこ、狸小路の端っこともいえるこの界限には、端っこを好む？店主が宮むツウ好みの店が多い気がします。特別なあの子を連れて行ったらポイントが高くなるかもしれません。電車を降りると、小学校前に薄緑色の歩道橋が見えます。いたずらな笑顔であの子が無邪気に駆け上がったら、いつもより可愛く見えるかも。繁華街が寝静まる明け方、ふと、キタキツネに遭遇することがあります。はらべこの彼らにとってここは、円山から続く豊かな森の端っこといえる、かしれません。

資生館小学校前



センターポール方式
景観に配慮し、電柱は軌道の中心に。ガス灯風の淡い光が行き交う電車を照らす



資生館小学校
2004年、4つの小学校が統合して誕生。校木の楓が、地域と子どもたちを見守っている



(取材・記事 佐久間麻子)



東本願寺別院
札幌で一番古いといわれるお寺、東本願寺別院には大樹が敷地内にざらり



東屯田通
かつて第二の狸小路ともいわれた商店街。今も昭和の面影が残る



東本願寺前

カーブに想いを馳せる

電車を降りて、北を向くとまっすぐな道。南を向くと：ゆるやかなカーブ。札幌がかつて原野だった頃、東本願寺札幌別院より南側は山鼻村。その隣の札幌中心部には本府が置かれ、それぞれの村で碁盤の目の街づくりが進められました。しかし、二つの村が交わる場所には微妙なひずみが生まれてしまったのです。

電車に乗っていると、ぐーんとカーブしていくその瞬間。そこから見える景色は、昔と違っていたとしても、140年の時を経てなお、二つの村のひずみを埋めるかのように道はつながっています。先人たちがつないできた道を、辿ってみてはいかがでしょう。



アーケードでつながる東西約1キロの空間はまるでタイムトンネル



すすきのにはたくさんの街灯が設置されている。場所により街灯のデザインが違うので、探してみると新しい発見があるかも

東西約1キロの時間旅行

狸小路
停留場から東西に広がる直線約1キロのこの小路は、地元さっぽろっこの商店街として親しまれています。少しユニークな小路の名の由来は、札幌の開拓期、このあたりに立ち始めた飲み屋の女性が言葉巧みに男性を誘う様が、まるで狸が化かしているようだということからきているとか。歴史があるこの商店街、道民に愛される餃子チェーン店が実はここが発祥だったり、男爵がテラスからビールをあおるビアホールが実は現存する北海道最古のものだったりします。小路をいつもよりゆっくり歩いてみると、気がつけば、きつとあなたも時の旅人。

狸小路

すすきの

すすきのの街灯と彫刻

すすきのには、たくさんの方の観光客や地元の人で賑わう歓楽街です。街を飾る看板やネオンのおかげで深夜でも明るく、時間を忘れることもしばしば。その明るさのためなかなか気がつきませんが、すすきのにも街灯があります。路地には「銀座通り」や「すすきの通り」など、歓楽街ならではのたくさん横丁があり、通りごとにデザインの違う街灯が設置されています。また、駅前通り沿いにはたくさんの方の彫刻があります。酔った帰り道に街灯や彫刻を眺めつつ、ここはどこと場所を当てるのも、すすきのの楽しみ方のひとつかもしれません。



ライオン男爵

街行く人に陽気に語りかける男爵人形は街のちょっとしたアンティーク作品



本陣狸大明神社

狸の神さまを祀った神社。この一角は商店街のオアシスのような癒しの空間



球の記憶

すすきのの歩道に設置されている。丸山隆氏の作品



あっち こっち

すすきのの歩道に設置されている。松隈康夫氏の作品

市電BOOK



編集後記

たくさんの方々のご協力のもと、無事に市電BOOKを完成・発行することができました。

私自身も普段市電に乗ることはなく、今回この本を作るために久々に市電に乗り、市電沿線の街を散策することで、新たな札幌の風景に気づきました。

雨の日の図書館、藻岩山の麓のお洒落なカフェ、中心部から少し離れたレトロな街並み…。

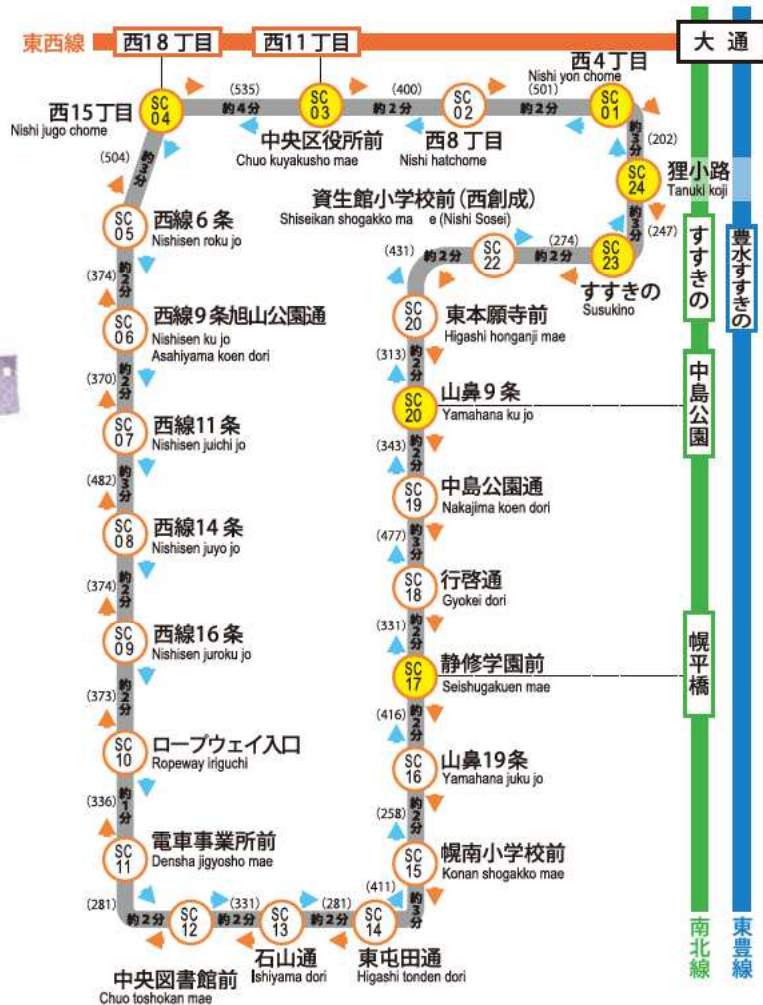
この本は、私のように普段市電に乗らない人が「どんな本だと手に取りたいと思うか？」と考えながら作られています。

この本をきっかけに、市電にたくさん乗って、皆さんにも新たな札幌を発見していただけると幸いです。

(深堀 麻菜香)

市電BOOKプロジェクトの皆さん

・坂下嘉章(西4丁目/西8丁目)・長編あゆみ(中央区役所/西15丁目)・池田毅司(西線6条/西線11条)・安井真由美(西線9条旭山公園通)・佐々木美和(西線14条)・高崎克秋(西線16条)・神垣晶子(ロープウェイ入口/電車事業所前)・丸山勇一(中央図書館前/石山通)・藤田伸夫(東屯田通)・小堤範子(幌南小学校前/山鼻19条)・高石佳太(静修学園前)・吉中嵩宙(行啓通)・原田千晶(中島公園通/山鼻9条)・佐久間麻子(東本願寺前)・平田舞子(資生館小学校前)・芳賀智士(すすきの)・榎谷翼(狸小路)・小林優斗(巻頭言)・深堀麻菜香(編集後記)・勝木麗華(取材・全体校正)・石井睦美(全体校正)・木村あおい・木村こはく・小田弥生(取材)



◀は外回り、▶は内回りを表します。

()内の数字は停留場間の距離(単位m)です。

●は地下鉄との乗継指定停留場です。

※ 西4丁目・狸小路・すすきの停留場は、地下鉄大通・すすきの・豊水すすきの駅のいずれでも乗り継ぎできます。